

帯中カタリバについて

このカタリバや学校に関して思ったことです。教頭先生、及び1・2年生のみなさんに聞いてほしいです。最近、教師が〇〇や学校の決まりがどうこうだという意見が目立ってきましたね。教頭先生がカタリバのように自分の思ったことを口にできる場を設けて下さったので、悩みがある人や聞きたいけど面と向かっては…なんて人達は凄く感謝していたり、他の人の質問を見て「自分と同じ人が居る」と思えた人も居るのではないのでしょうか。自分はカタリバでの会話や生徒の言葉に対して教頭先生が回答してくださるような学校はとても贅沢だと思います!笑 それでも、「あれが嫌だ」「先輩達の態度が…」という言葉はどうも胸がモヤモヤします。確かに誰かが不快だと思ったことは他にも沢山不快に感じている人がいるかもしれないことです。だからこそ、先生方や先輩などに対して述べるのであれば、言い方や伝え方があります。例えば、「白亜祭の練習方法に納得がいっていない」という意見があったとします。それはきっと3年生に向けたことだと仮定して、「どうして暑くてもマスクを外したり、カーテンを閉めてくれないのか」「声を出してと言われても出ないものは出ない」のように思っている子達が居るのではと思います。今の3年生は、昨年同じことを思いながら3年生の指示に従って練習していました。正直、今年になって初めて指示を出す側の大変さや、練習時間の短さを実感した人がほとんどです。その上、コロナの対策や1・2年生にも一緒に頑張ってもらわなければならない。そんなプレッシャーが意外とあります。3年生は全員が大きな声で歌えるわけではありません。でも、今の1・2年生の合唱よりも3年生の合唱の方が大きいんです。歌が得意じゃなくても何かしらの役目を持ち、短期間で歌を完成させた先輩方にほんの少しで良いので、敬意を払って練習に臨んでみて下さい。なんだかんだいって本番は大きな声を出したくなります笑 それは周りの空気と3年生の気持ちに引っ張られるのが凄く楽しいから。きっと何人かの先輩方は歌にこだわりがあって真剣に取り組んでるんじゃないくて、もっと簡単な理由で楽しんでいて、右往左往しながら皆さんの前に立っています。折角なら一緒に楽しんで良い思い出として白亜祭を残しましょう。この白亜祭に関しての意見だけでなく、これから何か思うことがあって「言ってやりたい!」と思っている人達も比較的良い環境の学校に居るので、上手く視点を変えて自分がその意見への返答ができるようになったら、もっと良いと思います。もし今の自分が教頭先生や先生方の立場に立ったとして、誰から来たのかも分からない要望にその本人が思うままの環境を具現化できますか?よく考えてから言葉にしましょう。長々とどうでも良い話でしたが、カタリバの活用法を誤っている生徒も居るみたいなので、優しい話が増えたら良いなと思いました!



たくさんの想いを伝えてもらい心が軽くなりました。実は、最近カタリバの編集がとってもつらくなっていました。このカタリバは、私が家に戻って毎日深夜に、登録された相談や回答をチャット形式へ編集しています。そして、通常はあくる早朝学校に来て勤務時間開始前、HPへの公開作業を行なっています。このカタリバに関する作業が、本来の学校の仕事かと言われるればそうではなく、私がやりたくてやっていることです。もしも私が帯山中学校から異動になれば、残った先生に無理に引き継ぐことは、大変さを知っている故に私にはできません。でも、心のどこかでは形を変えてでもいいのでみなさんのつらさを受け止める取組が学校で続けばいいなと思っています。せっかく、このメッセージを登録してくれた相談者さんからもらった機会なので、私が「帯中カタリバ」を作った経緯や想いなどを次のページに記しておきたいと思います。少々長くなりますが、読もうという気持ちになった生徒のみなさんは読んでもらえると嬉しいです。



教頭 田中

人は誰でも、いろんな種類のつらさを抱えながら生きています。もちろん、喜びや充実感もあるでしょう。でも、今までつらい気持ちに一度もなったことがない人はいないでしょう。ただ、そのつらさを誰かに話せるかといえ、私は話せないと思っています。中学時代の私はそうでした。親との関係も、友達から言われたつらい言葉も恋愛も… 重いからこそ言えないものばかりで、そんな荷物は一入ぼちで抱えていくしかないと半入人生を諦めていました。兄弟姉妹もない一人っ子の私は、誰にも頼ることができませんでした。

ある日、家に帰りたくなくて、放課後ひとり教室にぼつんと残っていた時がありました。そんな時たまたま小学校からの友人が教室に入ってきました。窓際の自分の席に座っている私に気づいた彼は「どうした…」と一言だけ私に声をかけました。その後は、薄暗くなった教室で互いの席にただ黙って座り、30分ほどが経ちました。友人は、しばらくし「帰ろっか…」とだけ私に言いました。自転車通学の彼は、学校から私の家まで自転車を押して一緒に歩いてくれました。2キロ弱の道のりを、ただただ黙って二人で歩きました。私の家の前に着くと彼は一言「また、明日学校でな…」と言いました。人のいい彼は、その後大人になって知り合いの借金を抱えさせられて、遠くに行ってしまう今はどこにいるかわかりません。私は、その友人と今話すことはできませんが、彼の存在は、私にとって今でも大きなものとなっています。

私にはたまたま、ラッキーなことにそういった友人がいました。でも、すべての人が私のように偶然に恵まれているとは限りません。つらい気持ちに、そつと寄り添えるそんなものが、自分が勤務する学校でできないかなとずっと考えていました。それが、「帯中カタリバ」です。中学生の頃の私は、自分なんて人の役に立てないと思っていました。いてもいなくても誰も困らない。自分のことをそう思っていた時期もあります。でも、本当は心のどこかで誰かに役に立ちたい、必要とされたいと思っていました。

今の私が、みなさんの誰かの役に立てているとするならば、当時の私も誰かの役に立てたのかもしれない。そう考えると、今つらさを抱えているみなさんも、きっと誰かの生きる力になり、誰かを支える大切な存在だということです。そういった優しさと優しさが出会う場所、それが「帯中カタリバ」です。誰かを助けるとき、助けた相手が誰かをを知る必要もなく、助けた自分を相手に教える意味もありません。帯山中の誰かが誰かを支えている。支えられた人も支えた人も大切に、みんなそこにいなくてはならない人。

だから、カタリバは「匿名」という仕組みを取っています。「匿名」には、誰かを簡単に傷つけてしまう残酷さと逆に相手の力になる優しさがあります。私は、カタリバの「匿名」には残酷さではなく優しさがあると信じています。

帯中カタリバは帯中生しか書かないからこそ、相手を非難する書き込みがあると誰なんだろうと分からずにみんなのことが怖くなります。逆に優しい書き込みがあるとすれ違入人みんなが優しく見えてきます。同じ、匿名の書き込みなのに不思議なものですね。

長くなりましたが、私は帯山中にいる生徒のみなさんもそしてその保護者の方々も、それにそこで働く先生たちもみんな大切に。意見や改善してほしいところがあればいつでも話を聞きます。職員室でも待っていますし、ロイロノートの「ほつと相談」でメッセージを私に送ってもらっても大丈夫です。だから、よければ「帯中カタリバ」は、読んでいる人もほつと心が軽くなるような、そんな場所にしてもらえませんか。「帯中カタリバ」の仕組みを用意したのは私ですが、日々「帯中カタリバ」を作っているのはみなさんです。「帯中カタリバ」が周りから評価を受けているとすれば、それは私がすごいのではなく、みなさんが素晴らしいということです。これからも「帯中カタリバ」をよろしくお願入します。

長い文章に付き合つて、最後まで読んでくれたことに感謝します。



教頭 田中

私も教頭先生や、生徒さんのように最近、名前、顔が見えないことをいいことに好き勝手に言ってしまう人たちが増えているような気がします。カタリバは個人個人の意見を言う場ではありますが、その意見を見るのは紛れもなく貴方と同じ中学生や先生、人間です。当たり前でも忘れがちなのを忘れないでほしいなと思います。決して意見を言うなどかではなくそもそものカタリバの目的は学校をより良くしていくことだと思います。どうしても無い悪口ではなく、感謝、お願い、改善点についての意見が増え、人々の心の支えになるカタリバになることを願っています。

